

## 答辞

紫陽花の色が美しく映え、日中がずいぶん長く感じられるようになった今日、私、2代目広小路クララ役加藤綾音は知多娘。卒業の日を迎えました。

本日はこのような場を設けてくださり、誠にありがとうございます。また、お忙しい中この会場に足を運んでくださった皆様に心から御礼を申し上げます。

本日は私加藤綾音の知多娘。としての最後の日です。ですので最後に、皆様に本当の私をお話ししたいと思います。

まず、知多娘。に入る以前の私が知多半島内の私立高校で和太鼓部に所属していたのはご存知の方が多いかと思います。和太鼓部での活動は私が知多半島や知多半島に暮らす人々を好きになったきっかけでもあります。しかし、当時生徒会執行部のメンバーとしても活動していた私は部活動との両立が上手くできず、結果、仲間外れにされてしまうという状況を作り出していました。学年の5人に1人は和太鼓部員であったために、部活動だけではなく教室での居場所も失ってしまい、生徒会室だけが学校の中で唯一の私の居場所でした。部活動に参加するだけではなく、学校に行くのも苦しいと思っていました。

そんな時に父が見つけてきてくれた知多娘。7期オーディションのポスター。

以前から知多娘。が好きだった妹に対して応募を薦めていましたが、当時は年齢制限にとどかず妹は応募できませんでした。なので私が自分が生まれ育った知多半島や、和太鼓部員として感じた地域の人々のあたたかさ、その力になれるのなら、今の自分を少しでも変えられるのならと応募を決めました。きっと学校という狭い世界以外に居場所がほしかったんだと思います。

一次オーディション、最終オーディションを経て、2016年7月10日、2代目広小路クララ役として知多娘。声優メンバーの一員となりました。

最終オーディションで私に票を入れてくださった方々がいたからこの場所にいられます。心から感謝しています。

歌もダンスも、ましてや演技なんて少しも経験がない私にとって、知多娘。に入った初期の頃は周りの練習のペースに置いていかれないようにするのがやっとでした。

がむしゃらにしがみついていた。

そんなある日、初代広小路クララ役である社本さんのインタビュー記事が載った新聞を拝見しました。そこに書いてあった言葉に衝撃を受けたのを今でも覚えています。「クララはもう一人の自分」このたった一言で、社本さんのクララへのまっすぐな愛が伝わります。どれほど真正面からクララと向き合ってきたんだろう、どれだけクララのことを考えてきたんだろう、そして過去の動画で拝見したステージ上の社本さんのお姿、まるでクララがそこにいるみたいに私には見えました。

その言葉を、その姿を、受け継がなきゃいけないって、私は直接お会いしたことのない社本さんの影を必死に追いかけて始めました。

知多娘。として活動してきた約6年間は、私にとって新鮮で驚きの多い日々で満ちていました。

行ったことのない場所に行き、知多娘。にならなければ出会うことのなかった人とたくさん出会い、様々な経験から多くのことを学ばせてもらいました。

しかしその中で葛藤も多くありました。

声優を目指す子のために結成された知多娘。というグループに私がいることで夢を追いかけている子の可能性を妨げてしまっているのではないかと、芸能を目指していない私がここにいるのもいいのだろうか。練習も本番も思うようにできない、私だけがみんなの成長のスピードに置いていかれているような感覚。ネットの掲示板では心ないことを書き込まれ、心が粉々になるほど傷付き自信を喪失していました。

1年目の頃から何度プロデューサーに「辞めたい」と言ったか分かりません。

そんな私が今日まで6年という年月を知多娘。として過ごせたのは、共に困難を乗り越えてきた信じ合える仲間、私を信じて期待してくれた人、そしてなにより、私を応援してくれる人の存在や言葉があったからこそです。

その存在に、言葉に、数えきれないほど救われてきました。支えられてきました。

そうして活動を続けてきて、私は知多半島や知多娘。をどんどん好きになりました。

だからこそ、この度知多娘。を卒業することを決めました。

今の知多娘。はコロナも乗り越え、地域での活動がどんどん戻ってきていて、その中で地域の企業の方々と協力し知多半島という素敵な場所を発信している。私からみても勢いが出てきているのだと感じています。何度も辞めたいと考えたこの活動に就職を期にほとんど参加

できなくなってから、私はそれらの活動に参加できないことが苦しくなりました。大好きなクララが動けないことが苦しくなりました。

私は今の知多娘。は、もっともっと大きな舞台にいけると信じています。今のメンバーの力を信じています。私はそこにクララも一緒にいて欲しい。

知多娘。が好きだからこそ、大切だからこそ、私はこのタイミングで辞めるべきだと考えました。勢いに乗り始めた今、このタイミングでなら活動の幅も広げつつ新人の育成もできる。今しかないと思いました。

この約6年で、クララと共にいれたから、隅っこで黙っているような性格だった私が、明るく笑顔で居続けられるようになりました。たくさんのイベントに参加できたのはサポートしてくれる両親がいたからです。心が粉々になるほど傷ついても、何度も立ち上がることができたのは支えてくれる仲間や応援してくれる皆さん、あたたかく受け入れてくれる地域の方々がいたからです。

今日卒業しても、これまでに私を見つけてくれて、見守ってきてくださった、私にこんな素敵な居場所をくれた皆さんへの感謝は尽きることはありません。

そして、知多娘。や知多半島、クララへの愛も決して変わることはありません。

最後にはなりますが、この場をお借りして伝えさせてください。

皆さんのことも、みんながいるこの場所も心から大好きです。

「クララはもう一人の私」この言葉も、今なら胸を張って言えます。

本当に今日までの約6年間、ありがとうございました。

私は知多娘。としてみなさんと出会うことができたととても幸せでした。

梅雨入りも間近となりましたが、くれぐれも健康にはお気をつけください。

皆さんの健康と笑顔で過ごせる明日を心より願っております。

2022年5月29日

2代目広小路クララ役 加藤綾音